

第3期広島市立大学塾活動報告【10月16日】

国際学部国際学科4年 田中 太一郎

2回目は初のオープン参加2名を加えて、前回よりもさらに新鮮さが増した活動となった。今回は事前に指定されたプロジェクトX3本を事前に視聴し、それらの中に登場する人物の行き方や使命感、責任感について塾生自身が考えたことをレポートにするという事前課題が与えられ、それをもとに議論が進められた。

瀬戸大橋をかけるプロジェクトを主導した人物、日本で初めて盲導犬を教育し日本に広めていった人物、土砂崩れで孤立した650人を助けた警察官など置かれた立場は様々であった。

プロジェクトXは2000年から2005年まで放送されていた番組で少し古いにも関わらず塾生たちはみな一様にして登場人物の生き様がかっこいいと評していた。特に瀬戸大橋プロジェクトに登場する杉田さんにはみな尊敬の念を抱いていた。しかし、今回オープン参加で参加した女性は少し否定的な見方をしていた。その理由としてあげられたのは杉田さんは仕事に熱中した代償に大切な妻を失っていたことである。男性と女性の見る視点が違うことは新たな発見であった。また人生に何に重きかもそれぞれが違うのだと感じた。仕事を一番だと思ふ人々もいれば家族と答える人もいるだろう。しかしどれが一番いいというわけではない。

私が特に印象的だったことは杉田さんが母校の講演会での言葉である。「偉大なる人生とはどんな人生を言うのか。これは非常に難しい問題であって、瀬戸大橋を作るよりはるかに難しい問題です」実際に彼は瀬戸大橋プロジェクトを最後に娘たちの世話をすることに人生を捧げている。杉田さんの人生にとって最も価値のあることは橋をかけることではなく、娘たちを立派に育てることであった。私たち自身も人生を偉大なものにするために何をなしたいかよく考え行動することが大切だと学んだ。

また活動の最後に青木副塾長から聞く人のことを考え、人に伝わる話し方をすると指摘をされた。確かに、この2回の活動では塾生はみな自分の思ったことをそのまま述べているだけであったように感じる。せっかく考えたことも話し方が拙ければリーダーとして人を引っ張ることはできない。この市大塾を通して、自分たちの考えたことをわかりやすく伝えるというスキルも向上させて、さらに成長していきたい。